

NEW

2023、4、24

直方ミニバスケットボールクラブだより

共育コラム

(2022、10、26のクラブだよりから)

「人は必ず変わる（成長する）ことができる

毎年のことですが、昨年度のチームづくりにも、苦労がありました。昨年度は6年生になって途中から入部してきた子が多く、学校生活とクラブ活動の両立、基礎基本の技術の習得等、個々のちがいを受けとめながら、徐々にチームとしていくことは容易ではありませんでした。でもその過程で貴重な学びが子どもたちにも、私たちおとなにもありました。

年度がかわった今ですが、何号かにわたって掲載します。

子どもの力

最近の子どもたちのようすを見聞きするなかで気になっていたことについて、子どもたちを中心に、個別に、学年別に、練習グループ別に…と、ていねいに聴き取りをし、学校生活や友だち関係などの現状を把握してきました。そこから明らかになった課題について、その解決に向けてどのように取り組んでいくか、時間はかかりましたが子どもたちと対話を重ね、それぞれにできること、しなければならないことを確認しました。

下記は、10月23日（日）男子の高学年を中心としたミーティングのなかで、6年生の一人が、学校生活に困り感をもっている子に語ってくれたことばです。

自分も以前は、いやなことから逃げて、みんなに迷惑ばかりかけてきた。自分は心が弱いところがあって、すぐはらかいたり、あきらめたりすることがあって…。

でも、自分には大好きなものがあって、それがバスケットだった。このままだったら、大好きなバスケットができなくなる、変わらないけんと思った。でも、思ったからと言って、そう簡単に変わるものじゃない。時間はかかったし、今も完璧じゃないけど、ようやく今の自分にまでなれてきた。それは、この間、ずっと自分を応援し見守ってくれた人がいたからで、自分一人の力では変われなかった。それに、あの頃の自分だったら、普通はみんな、かかわらんごとしようと思うと思うけど、でも自分を見捨てずにかかわってくれた友だちや先生がいてくれた。だから変わってこれた。

自分一人ではなんともならんときもある。そんなときは、自分一人でなんとかしようと思わんで、だれかにたよったらいい。自分たちにたよってくれてもいい。できることは、自分たちもするから…。ただ、ずっとたよりっぱなしではだめで、自分も努力しようとするのが大事。それは忘れんで…。

人は自分一人では変われんけど、支えてくれる人、応援してくれる人、かかわってくれる人がいたら、必ず変わる。だから、自分を支えてくれる、応援してくれる、かかわってくれる、その人たちを大切にしないとイケない。人は必ず変わる（成長する）ことができる。

感情を高ぶらせるわけでもなく、とつとつと語ってくれることばに、私も聞き入っていました。

この発言を皮切りに、6年生が一人ひとり、自分の経験（失敗やつまずきも含む）をふまえてことばをつないでくれました。

「自分は以前、宿題をちゃんとしていけないときがあったけど、今は…」

「自分もこの前、失敗してみんなに迷惑をかけたけど、今は…」

「自分も、以前はやんちゃしてて、迷惑をかけてきたけど、今は…」

「自分が、また同じような失敗をしかけたとき、友だちが止めてくれて失敗せずにすんだ…」

「自分一人でなんとかしようと思わんで、むずかしいときは、人を、誰かをたよったらいい…」

「自分も失敗することがあって言える立場じゃないかもしれんけど、できることがあればするので、自分たちをたよって…」

こんな質の発言が続きます。うまく気持ちをことばに置き換えることができず、途中で言えなくなる子もいましたが、なんとか伝えたいという思いは分かりました。ことばを紡ぐって、こんなことだと思いました。原稿を用意していたわけでもなく、メモしたものがあつたわけでもないなかで、自分の気持ちをこんなかたちで切々と語る事ができる子どもたちの力に感服しました。おとなは説教になりがちですが、子どもたち（6年生）は自分のことを重ね、子どもとして対等な目線でアドバイスしてくれます。これまでの「失敗」が、ちゃんと「学び」に変えられていることがわかります。すごい「学習力」だと思います。もちろん、「まだ自分が言える立場ではありませんが…」と自戒も込めて子どもが言っているように、まだ完璧ではありません。これからも失敗することやつまずくことはあるでしょう。それでも自覚に基づいて言える子どもはすごいと思います。そもそも人間に完璧なんてありません。おとなだって、完璧な人はいません。私もその一人です。迷うし、悩むし、失敗することもあります。だからこそ、子ども時代のこのような経験がとても大事です。

